

夜盲と視野狭窄に特化した暗所視支援眼鏡 「HOYA MW10 HIKARI」の紹介

【はじめに】

当院では、視覚障害者を対象に各種視覚補助具の選定と指導を行っていますが、拡大読書器や遮光レンズのように明所視で使用する物ばかりでした。

今回、夜盲と視野狭窄に特化した暗所視支援眼鏡を、平成28年度日本の失明原因疾患第2位の、進行した網膜色素変性症患者に装用してもらい、その有用性が確認されたので報告します。

【夜盲と視野狭窄】

夜盲とは、暗所視に視覚の役割を担う杆体細胞の障害により暗順応ができない状態のことで、網膜色素変性症や先天性停止性夜盲などがあります。

視野狭窄とは、視野が狭くなることで、網膜色素変性症や緑内障などがあります。

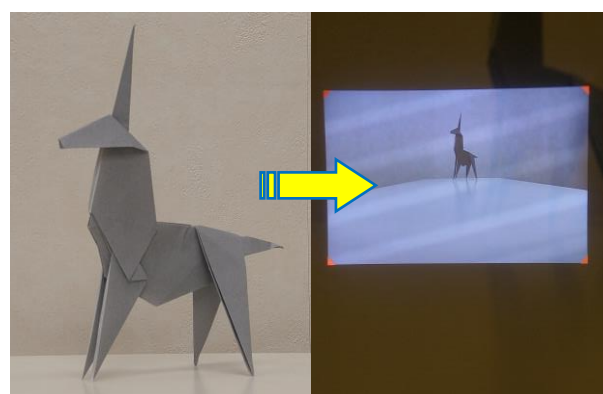
【暗所視支援眼鏡の構造】

眼鏡前面中央にある低照度高感度カメラで撮影した映像を、両サイドの小型プロジェクターからシースルーディスプレイに投影し、広角で明るい映像を映し出します。価格は、現在のところ39万5000円です。



【視野の拡大】

標準レンズに比べ、広角レンズで撮影された像は小さく見えますが、見える範囲が広く、多くの情報が得られるため、視野狭窄に有用です。



【夜間の見え方】

暗所視支援眼鏡を使用すると、19時頃の暗がりでも、道路の白線がはっきり見えるほど明るく映し出されます(当日スライドでは比較動画を使用)。

盲人用の白杖と組み合わせることで、より安全に歩行ができます。次に症例を示します。

【症例】

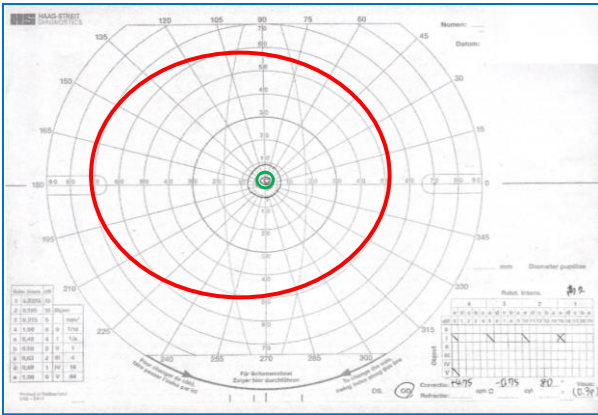
- ・ 71 歳女性、網膜色素変性症
- ・ 視力：右(0.3)、左(0.2)
- ・ 求心性視野狭窄（視覚障害申請時規定の I / 4 視標で中心 5 度以内）
- ・ 視覚障害者 2 級

〈主訴〉

- ・ 遠方及び近方視力低下
- ・ 視野狭窄、羞明、夜盲

〈動的視野検査〉

赤い円が標準視野です。緑の円が中心 5 度の非常に進行した視野狭窄で、周辺の様子は全く分かりません。さらに、夜盲なので夕方以降の薄明かりでは真っ暗に見えます。



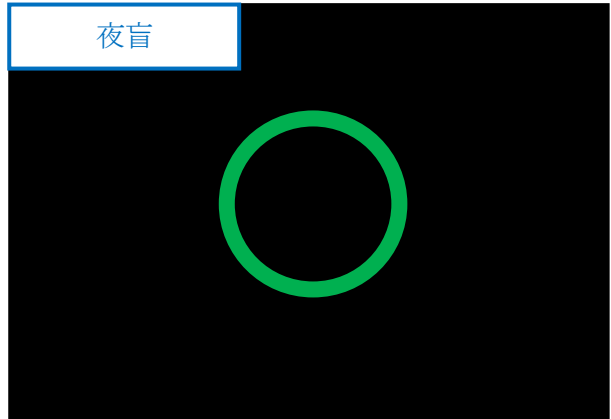
正常視野



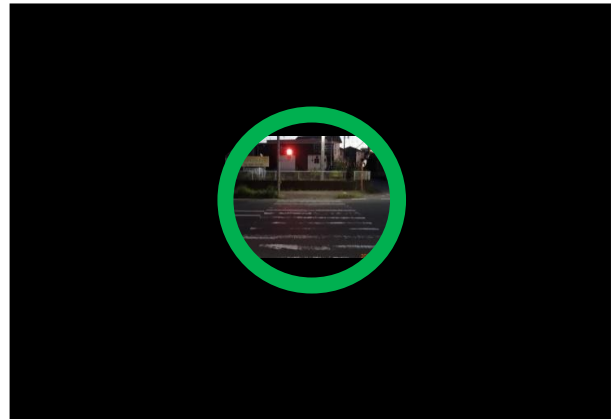
視野狭窄



夜盲



患者様に、暗所視支援眼鏡を使っていたところ、像は小さくなりますが、信号や横断歩道の様子が明るく映し出され、「夕方でも孫に会いに行ける。」「夜でも、買い物に行けるようになった。」と喜んでいただきました。



【公的助成の有無】

2020 年現在、茨城県では公的助成の受けられる自治体はありません。全国的には、「日常生活用具」の対象として、14 の自治体で、給付が受けられます。東京都の例を示します。

給付基準額 19 万 8000 円の 10% である 1 万 9800 円に基準額超過分の 19 万 7000 円を加え、21 万 6800 円の自己負担で購入できます。

【まとめ】

暗所視支援眼鏡が、進行した網膜色素変性症患者に有用であることが確認できました。認知度が低く高額であるため普及していません。

今後、多くの方が利用できるよう公的助成の整備が急がれます。

2020 年 11 月 14 日 院内業績発表会より引用